OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	部会ノート
Author(s)	西, 滋夫; 朝倉, 新太郎; 井田, 直美 他
Citation	大阪公衆衛生. 1959, 3, p. 21-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84751
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

部会ノート

保健予防部会

保健予防部会が生れて早や8カ月が過ぎ去った．乳児でいえば離乳期に入った処である．今日までは混合栄養で育って来たが，今こそ離乳食を摂取しつつある育児上大切な時期である．離乳期栄養障害の起らないよう部員一同注意すると共に心身健かに満1年の誕生を迎え得るよう努力しつつある．

今日まで，(1)結核管理の問題，(2)未熟児対策，(3)予防接種の検討の三つについては討議会，講演会などを開催し，夫々実施面に採入れ，検討し，或はフィールド・ワークを行ってきた．更に9月の地方討議会では衛生看護部会との共同テーマとして「結核患者の管理方式の検討」をかかげ，府市保健所，医師会から貴重な発表，活発な討論が行われた．これにより医師会との協調により，その管理方式の改善確立に大いなる示唆を与えた．

今後の方針としては(1)前記の結核管理方式の確立，(2)未熟児届出の現状，指導，管理の実際について調査すると共に種々の統計解析を行い，管理方式を樹立したい．(3)更に小児保健衛生面とくに乳児栄養指導上，現場の悩みになっている所謂「乳嫌い」の問題について大阪市保健所医師会母子衛生研究会が取り挙げたのを機に当部会においても検討の上，出来ればこれをバックアップすると共に部会を通じ府市保健所がこの問題を追求するよう働きかけたい．かくして統計学的乃至臨床学的に実態調査を行い，その原因が那辺にあるかを究明すると共に出来れば食品衛生部会の協力を得て乳製品そのものについての基礎的研究も希望している．(4)予防接種方式については現在府市の一部保健所で行っている医師会への全面委託の方式について更に討議を重ね改善への指針とするよう努力したい．

更に以上の成績を順次まとめると共に成人衛生の面にも第一歩を踏み出すべく準備を進めつつある．

この部会が離乳期をうまく切りぬけ若竹の如く育って行くよう皆様の協力と指導とをお願いして部会便りとする．　（西　滋夫）

医療保障部会

11月29日，阪大で衛生行政部会と合同で研究会を開く．テーマは「政令都市衛生行政の諸問題」．立松（八尾），八木（豊中），井田（池田），浜口（吹田），西（城東）の各所長，中山市食品衛生課長，府環境衛生課長代理などそうそうたる顔ぶれがそろう．特に，いろいろの資料を準備して出席を請うた大脇堺所長には本誌を通じて厚く感謝したい．

保健所活動のあり方を，管下地方自治体の行政組織や医療組織，或いは医療保障制度との関連において検討しようというこの種の研究会は，あと1～2回を予定しているが，これまでの数回の研究会で具体的な事例として話題になった権限委譲の問題，H.C.保健婦と国保保健婦の提携の問題，H.C.と医療機関の協同事業の問題など，どれをとり上げて考えてみても，問題の根底にはもはや法解釈や，行政技術や所謂話し合いの枠内では到底処理しきれない程の，わが国の厚生行政における構造的な欠陥が存在することを察知することができる．

幹事会は，研究会にもちよられるもろもろの話題や資料を整理し，上述のように，それらの問題の根底に横たわる制度的な，或いは組織上の問題を明らかにするような報告を本年度中に作製するように準備している．

医療保障委員（所謂5人委員会）の厚生大臣への答申案メモが発表された．これは社会保障制度審議会によって去る31年総理大臣に提出された「医療保障制度に関する勧告」をより具体化したものであり，さらに近く発足する予定の医療制度調査会に引継がれて検討されるという．

このメモの中に見られる「保健所について」の見解は，これまた最近になって発表された厚生省「厚生白書」が「保健所」について相も変らぬ人員不足を並べたてるにとどまっているのに比べると遥かに核心をつく議論を述べている．再読吟味してほしいものと思う．　（朝倉新太郎）

衛生行政部会

当部会では発足当初から一貫して保健所，市町村をふくめた衛生行政の第一線の組織はどうあるべきか，という問題にとりくんで現状分析を試みてきた．一市を管轄する府県保健所とその市の衛生課との関係について討議した第1回研究会のあとを受け，第2回は医療保障部会と合同で堺市を例に「政令都市衛生行政の諸問題」を主題として研究討議を行った．

政令市の場合は殊に都市によってその事情を異にする部分が多く当然一般論として論ずることはできないが，保健所が各種の予防行政について企画，実施を買いて実施機関としての機能を果しうることはたしかに利点としてあげることができようが，一面30万の人口に対して一市一保健所，しかも衛生部局と実施機関という二役をこなさねばならない実状，移動，昇進の途が狭いという人事管理上の問題点などが論じられた．

また，われわれが衛生行政における最も重要な課題の一つと考えている予防と医療との結合についてみても，政令市なるが故に両分野いずれにも実施機関をもっているという好条件にもかかわらず，保健所は市立病院，国保等医療関係の行政単位とは全く切離されて運営されており，助役の段階ではじめて関係がつけられるという現状であり，これには大きな問題があろう

なお当日，今後の部会の進め方についてもいろいろ意見が出されたが，当部会は医療保障部会と同様一回毎の集会で結論を出してゆくということは当然不可能な問題を研究対象としており，現在続けているような研究会—現状把握のための〝勉強会〟とでも呼んだ方がぴったりするが—をつみ重ねることによって現行衛生行政組織の問題点を整理してゆくという方法をなお続けてゆくことの必要性が確認された．（井山直美）

衛生看護部会

部会の歩みは遅ればせながら順調に進んでいる．

昭和33年９月20日

公衆衛生大阪地方討議会の第二シンポヂウム「地域における結核患者の管理方式の検討」において，部会員小田智江氏及び川野光子氏によりそれぞれ討議を行った．（詳細は前号に掲載）

昭和33年11月22日

懸案の「保健婦の生い立ちを語る会」を新築なった豊中保健所において開催（出席者約100名）．

まず阪大朝倉助教授に我が部会の実施せる保健婦実態調査の中間報告をお願いし，次いで諸先生のお話を感銘深く拝聴した．

1．浜田光雄先生（前大阪朝日新聞厚生事業団主事）

社会事業として出発した育児を中心とせる保健婦事業

2．保良せき先生（前厚生省医務局看護課長）

保健婦の資格待遇等の諸問題

3．長部英三先生（前府立厚生学院主事）

保健婦の教育及び小児保健所を中心とせるその事業の歴史的懐古

4．藤原九十郎先生（前大阪市保健部長）

育児相談所より保健所まで

更に丸山，関両教授（阪大）も出席され，それぞれの立場において激励され盛会裡に終了した．

尚部会長より前記４先生に当部会顧問を，両教授に相談役をお願いしたところ御快諾を得，我々の部会も発展への一階程を登った感を深くした．

本講演要旨は別に小冊子に編集する予定．

× ×

一歩前進

本年初頭，我が部会が掲げた３議題の中，多少の時期的ずれはあるにせよ２題までやっとの事である程度の進展をみることが出来た．諸先輩並に部会員諸姉の御協力の賜と厚く感謝の意を表したい．

今年こそ更に歩を進めて第３の議題「地域組織における保健婦業務の立場について」をとりあげると同時に，本質的な保健婦の使命を追求し，我等公衆衛生運営に共通の「生命にとりくむ」と云う命題に対し真剣な覚悟で臨みたいものである．（八木 明）

環境食品衛生部会

１月27日「英国における Public Health Inspector の訓練と組織」という題で阪大関教授の講演会を開催した（於田辺製薬株式会社講堂）．これには一部京都，神戸からも参加を得て講堂満員の盛会であった．講演の内容は本誌１頁および部会記録 No.2 を見られたい．要は監視員組織の問題で，教育，訓練を組織の中に持って発展して来たイギリスの監視員協会の力強さは，漸く盛り上ってきた部会各監視員会に深い感銘を与えた．部会活動が更に発展していくためには各会の自主的な活動が一層活発に行われることが何よりも大切である．当面の課題として監視員研修を指摘されたことは，昨年九月の地方討議会の結論の一つでもあったことと考え合せ，今後の部会活動の中心テーマである．講演会後に持たれた協会と行政主管課，係長との懇談会，さらに部会幹事と各監視員会幹部との連絡会を重ね，具体的な要望をまとめ上げるべく準備している．充分な準備をととのえ新しいタイプの研修を打ち出したい．

昨年６月，当部会で取り上げた現場検査の問題が来る４月に開かれる薬学会のシンポシウムに組まれ，大阪市から報告されることになっているが，関連学会との連携の問題としても重要であり，さらに組織立ってまとめていきたいと考えている．

尚佐々木秀郎幹事が環境衛生課水道係に転任されたため，新たに食品衛生係長になられた北浦得三氏に幹事をお願いした．（庄司 光）